

西門石垣は、今まで公開されていなかった場所だよ。



まさおねくん

復旧工事で明らかになった、

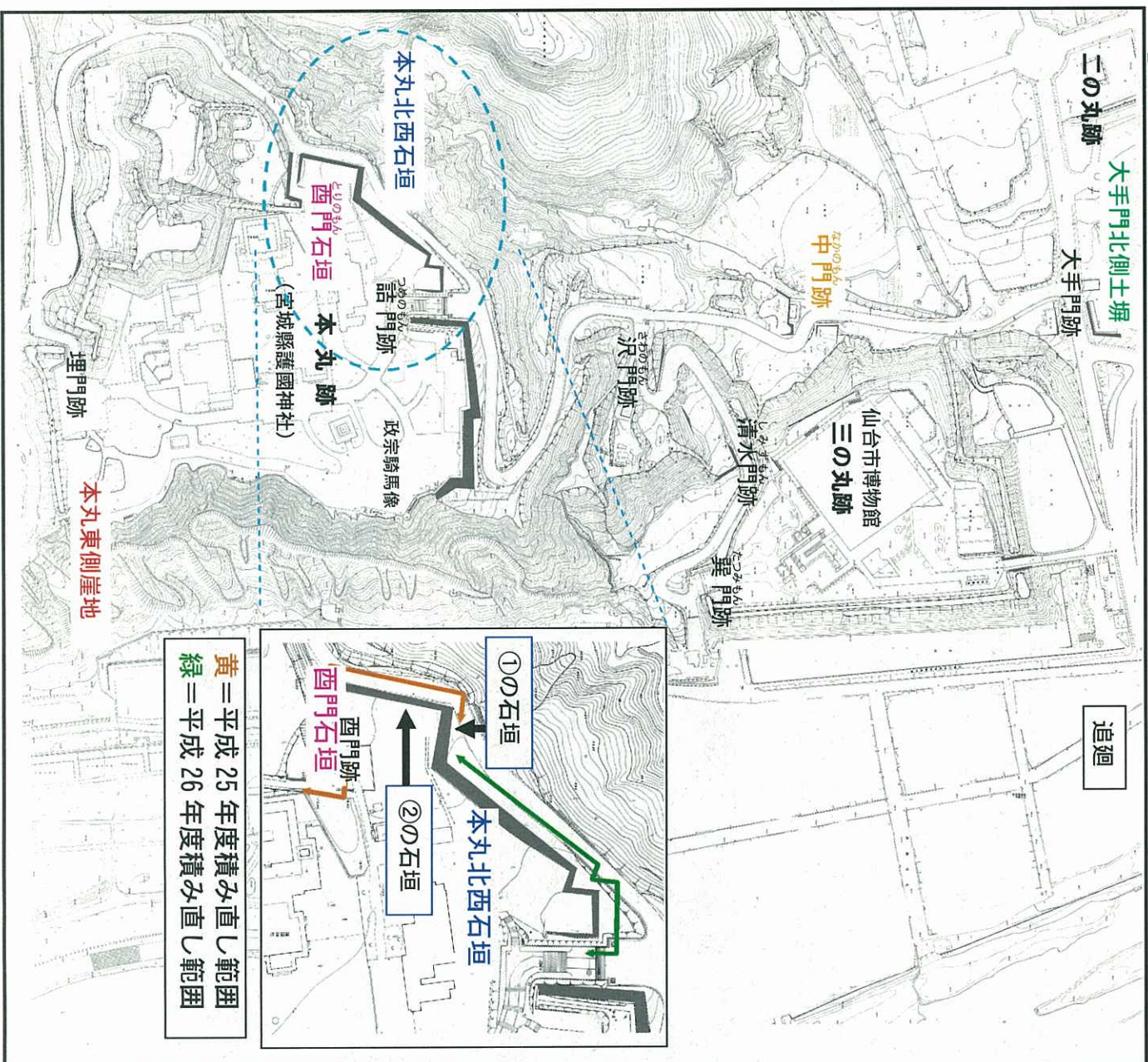
西門石垣を見る！！

仙台市教育委員会文化財課平成25年11月17日(日)

復旧工事の状況

東日本大震災で被災した石垣等の復旧工事は、平成24年度には本丸北西石垣の解体、**中門石垣**の解体積み直し、**大手門北側土堀**・**石垣**の復旧を行いました。平成25年度は、**本丸北西石垣南側**の積み直し、**西門石垣**の解体積み直し、**本丸東側崖地**の復旧工事を行っています。平成26年度末にすべての石垣復旧工事を終える予定です。

【仙台城跡周辺地図】



本丸北西石垣について

本丸北西石垣では、平成24年度に解体工事を行い、約5,000石の石材を解体しました。今年度は、南側の石垣の積み直しを行っています。これまでに、南側の石垣の約4分の1の積み直しを終えています。北半部は、平成26年度に積み直しを行います。解体工事では、石垣の背後からコンクリート片が見つかった場所がありました。このことから、①や②の石垣では近代に積み直しが行われた場所があることが分かりました。積み直しでは、破損している石材などを入れ換えたり、石垣の背後の栗石（カシヒ）を入れ直したりするなど、より安定した形で元の石垣の姿に戻すようにしています。

①



石垣の上半部がせり出し、歪んでいます。

②



地震で石垣が崩落したり、変形したりしました。

被災状況
(23年3月)

解体状況
(25年3月)



江戸時代からの石垣の姿を残すため、解体は崩落の危険性がある場所のみの必要最小限にしています。



ここまで解体した後、道路下を調査したところ、石垣の歪みが確認されたので、解体範囲を広げました。

積み直し
状況
(25年11月)

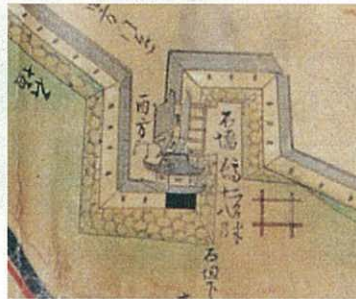


2〜3段ずつ仮積みを行い、全体的にずれが生じないかを確認しながら積み上げていきます。被災前の写真と見比べると、元の位置に戻すように慎重に作業を進めています。割れた石は、同じ形の石を作って交換しています。

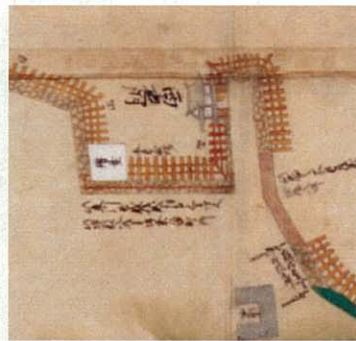
西門について

西門は仙台城跡本丸に4つある入り口のうち一つで、本丸の西側に位置する門跡です。門は外郭線より入り込んだ所に造られており、周囲は石垣で囲まれ、本丸の水源も近いことから、本丸を防御する上で重要な門であったと考えられます。

絵図によると、門の構造は瓦葺の二階門であったことがわかります。その他の施設は、仙台城を描いた最も古い絵図(左端の絵図)では、門の西脇に櫓が配置され漆喰の塀が巡っています。また、門の最後の絵図では櫓は描かれず、塀も漆喰の塀ではなくなっています。さらに、門より内側に石垣や石段が描かれているなど(中央右と右端の絵図)、門の構造が変化しました。可能性も考えられます。また、絵図からは西門が江戸時代中頃から大きく形を変えずに現在まで続いていることがうかがえます。



『奥州仙台城絵図』
正保2年(1645年)



『仙台城修理繪図』
寛文8年(1668年)



『奥州仙台城并城下絵図』
天和2年(1682年)



『仙台城修復繪図』
元禄7年(1694年)

発掘調査の状況

復旧工事に入る前には、工事範囲の石垣の天端(てんば：石垣の上面にある平場)の発掘調査を行いました。また、崩落した石材の移動後には、石垣の前面の発掘調査も行いました。

天端の調査では、3方が石垣に囲まれた部分の天端の上面は盛土して整地していることと、その上に礎石状の石を据えていること(写真1)がわかりました。さらに、南側の天端では石垣に平行する石列も検出しました(写真2)。石列を検出した場所は、絵図で「城番居所」とされる所に近い。番所に関する施設の一部である可能性も考えられます。また、石垣前面の調査では、現在の地表より下にも石材があることがわかりました(写真3)。



写真1 石垣天端の礎石状の石
左側は大きな石材が、右側は小さな石材が使われています。

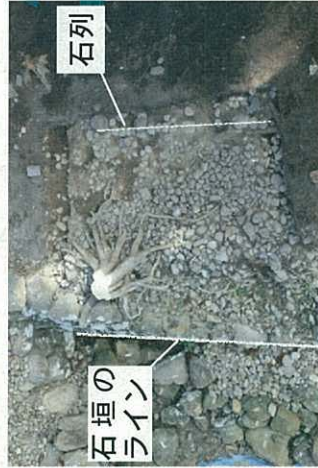


写真2 石列の検出状況
並んでいる石材は小さいですが、一定の間隔で少し大きな石材が使われています。



写真3 地表面下で検出した石材
地表より下で検出した石材は、盛土で覆われていました。



西門石垣の特徴

西門石垣は、自然石を積んだ石垣(野面積み)と表面を主に四角に加工した石を積んだ石垣(切石積み)の両方が見られます。野面積みの石垣には、自然石をそのまま積んでいる部分や、自然石の一部に加工を加えた石材を使用している部分があります。場所によっては、切石積みの上に野面積みがのっている部分や、切石積みの基部の並びにずれのある部分もあります。仙台城跡では「自然石そのままの石垣」から「多少加工をした自然石の石垣」、さらに「切石積みの石垣」と石積み技術が発達することが確認されていますので、石積みの様相の違いや、石積み技術の逆転、基部のずれは、何度か行われた積み直しの痕跡を示していると考えられます。



写真5 西門東脇の石垣
下の数段分は自然石をそのまま積んでおり、古い要素を残す石垣と考えられます。



写真6 西門正面の石垣
自然石を積んだ石垣ですが、表面の一部を加工した石材が見られます。



写真7 門跡付近から外側を見た状況
石垣の広い面の中には、様々な石積みの様相が見られます。



写真8 野面積みと切石積みが見られる石垣
写真中央付近で切石積みの石垣の上に野面積みの石垣のついている状況が確認できます。